も会郷土芸能発表会

2月14日、東通村体育館を会場に、東通村子ども会育成連合会（田中隆会長）が第38回東通村子ども会郷土芸能発表会を開催しました。

開会にあたり田中会長は、「郷土芸能に関わる子供の人数も年々減少してまいりました。その状況の中で、郷土芸能発展のため、保存連合会、婦人会、皆さま方と一緒にこれまで以上に活動していきたい」と挨拶しました。

子供たちは発表会に向け、地区の青年会や婦人会の皆さんの指導のもと、日々遅くまで練習を重ねています。

発表会は大利子ども会の「座敷番楽」で幕を開け、村内各地7団体の子供たちが、12演目を披露しました。新しい演目に挑戦する子供もいれば、1つの演目に年数を重ね、個性のにじみ出る舞を見せる子供もいます。

小さな担い手たちが郷土に見守られ、伝統芸能の歴史が紡がれていることを感じる発表会でした。

3

2

1

6

5

4

子ども達が担う下北の郷土芸能

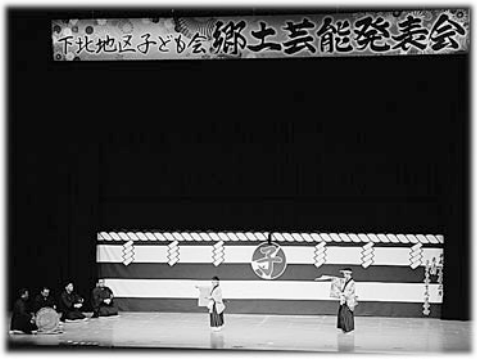
第38回東通村子ども会芸能発表会に先立ち、2月7日（日）には、下北地区子ども会郷土芸能発表会が開催されました。発表会は、子ども達の成果発表や、子ども会活動の理解促進のために開催されるもので、今回で31回目を数えます。

東通村からは大利子ども会が代表して参加。下北文化会館の大きな舞台の上、みごとな「座敷番楽」を披露しました。

修験者や北前船との交流があった下北には、各地域が歩んだ歴史に裏付けされた芸態の芸能が残っています。

もちつき踊り一つでも、大間町では江戸時代の歌舞伎役者によって伝えられたとされていて、東通村のものと比べると大胆な振り付けが印象的です。

今後も、地域間の芸能交流を通じて、伝承活動の更なる発展が期待されます。



ライトアップされた舞台の上、
大勢の観客の前で演じ切りました。